

日本鐵鋼協會記事

理事會 (昭和8年度第4回) 昭和8年6月7日(水) 午後5時開會。**出席者** 河村曉君、俵國一君、水谷叔彦君、鹽田泰介君。**協議事項** (1) 第11回講演大會に關し名古屋側委員第一回打合會の照會に關する件 (2) 研究部會討議案(川崎舍博士提出) 審議。3) 去る5月30日開會の編輯委員會決定の大會及研究部會準備に關する件 4) 入退會者及會員異動に關する件(自5月3日至6月7日)

1、入會申込者數 (全部承認)

正會員 7 名 准會員 31 名 計 38 名

ロ、退會申出者 (全部承認) 准員竹田竹次郎、本田登喜治計 2 名

5) 其他會務に關する件

報告事項 1、昭和8年4、5月分收支決算報告 2、村上式銻鋼直接壓延實驗見學、昭和8年5月18日午後2時戶畑鑄物會社東京工場に於て實演し見學者22名ありたり。3、古市男爵壽齡祝賀會延期の件 4、工業教育調査會第4及6回報告工學會 5、帝國海事協會技術委員會報告 本會代表委員水谷博士より次の報告ありたり。

議 題

イ、技術委員長斯波博士は任斯滿了に付き改選する事となり選挙の結果藤島範平氏當選す。

ロ、鋼船規則にメートル法採用の件

ハ、造船用材を J.E.S. に規定する事

以上ロハに就ては特別委員會を設くる事となり委員長に重光簇氏當選し水谷博士も特別委員に推薦されたり。6、會長宛書翰 小田切

延壽氏より講演者推薦及研究部會委員推薦。川崎舍恆三氏より研究部會の準備に關する件。石川登喜治氏より講演者推薦通知。大石喜一、笹尾政輔兩氏等より夫夫甲詞の答禮。7、本會へ寄贈圖書名古屋高等工業學校創立 25 周年記念論文集第 2 卷。2、試験研究項目要覽第 4 (資源局)。3、神皇正統記四冊(三秀舍島連太郎氏)。4、日本海防史料叢書第 10 卷(海防義會)。以上の通りにして午後8時閉會す。

編輯委員會 (8 年度第 3 回) 昭和 8 年 5 月 30 日(火) 午後 5 時開會 **出席者** 河村會長、委員石原善雄君、池田正二君、田中清次君、山田良之助君、足立泰雄君、廣瀨政治君、缺席者鹽澤正一君御病氣にて入院の處本日退院されたり三島徳七君御病氣にて缺席。

協議事項 1) 第11回講演大會に關し名古屋側委員より照會の件回答。2) 研究部會討議案審査(原案可決)。3) 研究部會委員推薦に關する件(推薦者を大體決定したるも詳細は足立委員調査される事) 4) 鐵と鋼第 19 年第 7 號上梓原稿選定の件

鐵と鋼第 19 年第 7 號掲載選定論文

- 1、鐵-酸素-炭素系反應接觸劑の共通性 岩 瀬 慶 三
- 2、鑄鐵の物理的性質に及ぼす燐の影響に就いて 石 黒 一 彦
- 3、壓延機のプレンベアリングをローラーベアリングに改裝したる結果に就て 宗 田 太 郎
- 4、マグネシウム-亜鉛-錫系平衡狀態圖に就て 大 谷 文 太 郎

新 入 會 者

居 所 又 は 宛 名 先	職 業 及 勤 務 先	會 員 別	入 會 者 氏 名	紹 介 者
名古屋市中区御器所町字北山乙四九	工學士 名古屋高工教授	正	伊 藤 萬 太 郎 君	俵 國 一 曉
名古屋市中区廣路町北石坂一一二	名古屋高工教授	〃	松 良 正 一 君	〃 〃
神戸市須磨區衣掛町三ノハノ六	工學士 川崎造船所飛行機工場	〃	渡 利 彦 一 郎 君	門 川 山 勤
名古屋市南区熱田東町外土居一一	理學士 三菱航空株式會社	〃	岡 田 俊 一 君	谷 石 澤 命
愛知縣鳴海町字片阪二〇	大同電氣製鋼所	〃	尾 崎 幸 太 郎 君	崎 村 舍 恒
大連市眞金町二九	滿鐵中央試驗所金相研究室	〃	日 下 和 治 君	野 崎 村 恒
小石川區大塚町七三	陸軍造兵廠東京工廠	〃	野 口 朝 光 君	三 村 島 橋 太
府下北多摩郡千歳村船橋一四四	工學士 東京帝大助教授	〃	平 社 敬 之 助 君	〃 〃
神戸市元町通五ノ一六〇(電元九六四)	神戸製鋼所研究係	准	太 田 清 一 君	吉 川 中 晴
大森區入新井町二ノ一二二四	理學士 日本特殊鋼合資會社	〃	須 山 文 吾 君	伊 丹 榮 一 郎
滿洲國奉天造兵所氣付	奉天造兵所	〃	大 關 忠 君	渡 邊 三 郎
横濱市鶴見區豐岡町三四〇	日本鋼管株式會社	〃	森 田 善 裕 君	志 村 清 次 郎
大阪市住吉區柴谷町四四	〃	〃	田 中 香 君	村 松 橋 太 郎
藤永田造船所分析室	〃	〃	谷 閑 衛 君	清 水 要 藏
目黒區三田五四	工學士 正五位子爵富士製鋼會社	〃	加 藤 武 君	西 村 秀 雄
蒲田區蒲田町一〇七二	工學士 日本特殊鋼合資會社	〃	森 永 卓 一 君	渡 邊 三 郎
大阪市北區東野田町大阪帝大工學部冶金學教室	工學士	〃	濱 野 實 雄 君	山 口 珪 次
神戸市葺合區脇濱町神戸製鋼所製鐵部	〃	〃	本 田 彌 太 郎 君	芦 原 光 太 郎
滿洲國本溪湖煤鐵公司工務所	工學士	〃		守 屋 逸 男

滿洲國本溪湖煤鐵公司營繕工場	工學士	准	小 川 悌 二 郎 君	〃
牛込區佐土原町三ノ八土佐協會内	東大學生	〃	岡 林 俊 夫 君	田 中 清 治
小倉市上富町一、一四二上田眞造方	淺野小倉製鋼所	〃	吉 ^{ヨシ} ^ヤ 谷 ^ガ 川 ^カ 仁 夫 君	行 方 敏 三 郎
神戸市葺合區宮本通り四ノ八七加藤方	工學士 昭和鋼管會社	〃	桂 寛 一 郎 君	渡 邊 一 郎
滿洲國本溪湖東山社宅六五ノ一	本溪湖煤鐵公司	〃	大 崎 豊 君	梶 山 又 吉
名古屋市南區道德新町三〇五二	大同電氣製鋼所	〃	石 井 健 一 郎 君	川 崎 舍 恒 三
名古屋市南區豆田町五ノ七	〃	〃	島 山 良 藏 君	〃
愛知縣横須賀町	〃	〃	川 岸 壯 治 君	〃
名古屋市南區東築地五、馬場方	〃	〃	成 瀬 惠 君	〃
名古屋市東區東大曾根町中三ノ四三〇	工學士 〃	〃	野 田 ^{ハジ} 一 六 君	〃
名古屋市南區瑞穂町西ノ割一四	工學士 〃	〃	楠 ^{マサ} 正 ^{ノリ} 允 君	〃
愛知縣大高町本町一三	〃	〃	山 口 鐘 治 君	〃
名古屋市南區東築地五大同電氣製鋼所	〃	〃	山 田 正 雄 君	〃
〃	〃	〃	谷 ^ヤ 地 ^ヂ 森 ^{モリ} 七 郎 君	〃
名古屋市南區東築地五ノ二八ノ一志岐方	〃	〃	益 田 義 三 君	〃
名古屋市南區彌富町字牛山一四七	〃	〃	小 島 兼 三 郎 君	〃
名古屋市南區豐田町下ノ割一、一八六	早大工學士 〃	〃	榎 ^{ナミ} 並 ^{タミ} 忠 照 君	〃
大森區大森五ノ二、一六一	日本特殊鋼合資會社	〃	平 田 作 一 君	石 原 善 雄
川崎市渡田日本鋼管會社	〃	〃	大 和 田 ^{ミツル} 充 君	志 村 清 次 郎
福岡縣遠賀郡中間町	工學士 深坂鐵業所	〃	松 山 ^{ダカシ} 喬 君	村 松 橋 太 郎
兵庫縣伊丹町六九一	大阪帝大冶金學生	〃	勝 本 彌 壽 雄 君	藤 井 寛
芝區白金志田町一	機械製作業	〃	石 田 謙 一 郎 君	村 松 橋 太 郎
福岡縣小倉市淺野小倉製鋼所	工學士	〃	平 田 清 君	〃
門司市小森江、神戸製鋼所門司伸銅工場内	工學士	〃	黒 瀬 行 義 君	依 國 一
名古屋市南區大江町三菱航空機製作所	工學士	〃	菊 地 省 吾 君	石 澤 命 知
名古屋市南區中ノ田町一三	工學士 三菱航空機製作所	〃	末 吉 國 夫 君	〃

會 告

日本學術振興會補助申請上の注意

同會より本會宛に申請方に關し特に下の如く通達ありましたから補助援助希望の方へ御注意申し上げます。

一、昭和八年八月三十一日締切の申請は間際でなく

早目に提出のこと。

尙ほ申請方の規則手續は「鐵と鋼」本號（第 6 號）〔雜錄〕に詳細上掲してあります。